

アビックスが技術協力している NTTコミュニケーション科学基礎研究所様の研究が 新聞発表されました

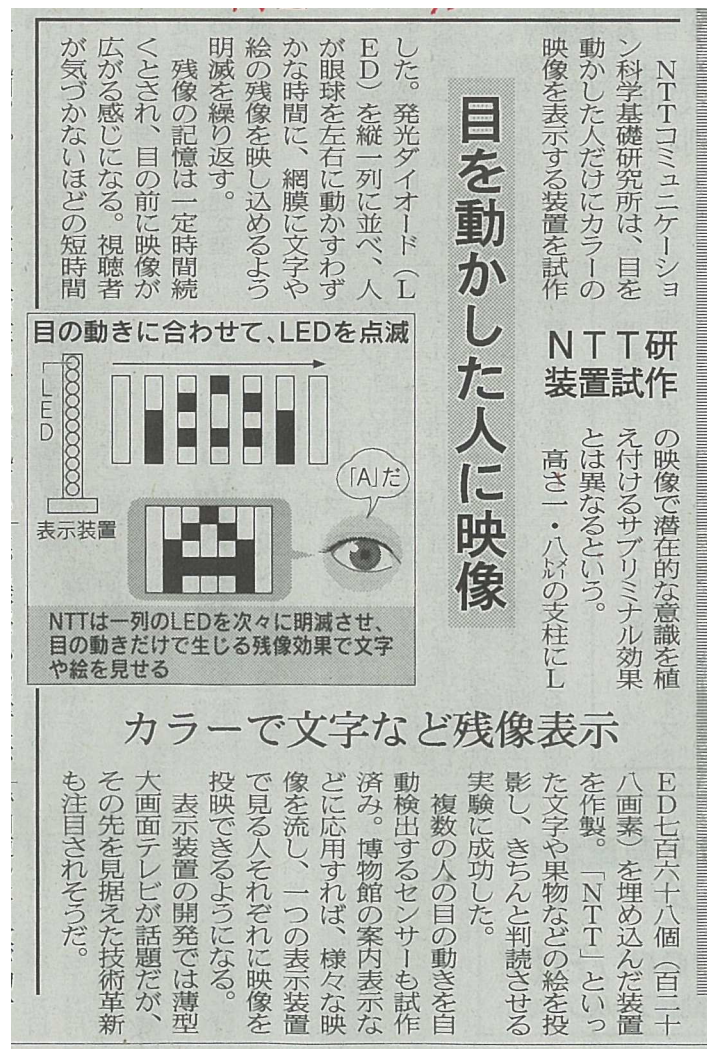
7月20日(金)の日本経済新聞朝刊に

「目を動かした人に映像 NTT研装置試作 カラーで文字など残像表示」
の記事が掲載されましたが、これに当社が技術協力を行っています。

当社は創業以来、「タイムスリット(通過型表示装置)」、「ミラクルスリット(視点移動型表示装置)」で目の残像効果を応用したLED表示機を一貫して開発し販売を行ってまいりました。

現在の当社主力商品のひとつである「ポールビジョン」、及び8月から本格投入する予定の「i-board」も同様に、発光パターンを規則的に変化させると目の残像効果が作用して映像が認識されることを利用したLED表示機です。

当社が先行して進めてきた技術開発が、NTTコミュニケーション科学基礎研究所様の将来有望な基礎研究に活かされています。



NTTコミュニケーション科学基礎研究所は、目を動かした人だけにカラーの映像を表示する装置を試作

目を動かした人に映像

した。発光ダイオード(LED)を縦一列に並べ、人が眼球を左右に動かすわずかな時間に、網膜に文字や絵の残像を映し込めるよう明滅を繰り返す。

残像の記憶は一定時間続くことされ、目の前に映像が広がる感じになる。視聴者が気づかないほどの短時間

目の動きに合わせて、LEDを点滅

表示装置

NTTは一列のLEDを次々に明滅させ、目の動きだけで生じる残像効果で文字や絵を見せる

NTT研装置試作

の映像で潜在的な意識を植え付けるサブリミナル効果とは異なるという。

高さ一・八メートルの支柱にLED七百六十八個(百二十八画素)を埋め込んだ装置を作製。「NTT」といった文字や果物などの絵を投影し、きちんと判読させる実験に成功した。

複数の人の目の動きを自動検出するセンサーも試作済み。博物館の案内表示などに応用すれば、様々な映像を流し、一つの表示装置で見る人それぞれに映像を投映できるようになる。

表示装置の開発では薄型大画面テレビが話題だが、その先を見据えた技術革新も注目されそうだ。

カラーで文字など残像表示